

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和元年度相模原市子ども・子育て会議 第4回子ども・子育て支援事業計画策定部会		
事務局 (担当課)		こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話042-769-8316(直通)		
開催日時		令和元年8月22日(木) 午後6時から8時		
開催場所		けやき会館 職員研修所大研修室		
出席者	委員	9人(別紙のとおり)		
	事務局	10人(こども・若者政策課長ほか9名)		
公開の可否		可	不可	一部不可
公開不可・一部不可の場合は、その理由		傍聴者数		
		1人		
会議次第		1 開 会 2 議 題 (1) 第2次相模原市子ども・子育て支援事業計画の策定について (2) その他 3 閉 会		

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開 会

2 議 題

(1) 第 2 次相模原市子ども・子育て支援事業計画の策定について

基本目標 8 については子育てサポーターの活動者数が成果指標となっているが、地域で子育て支援活動をしている人は、子育てサポーターだけではなく子育て広場のスタッフ等もいるので、それらを含めた指標にできないか。

全ての事業を網羅した成果指標を設定するのは困難であるため、ある程度限定せざるを得ないと思う。地域の育児力を向上させるという意味では、幼稚園や保育所などにおける各委員の活動も含まれるので、そういった部分も含めて表現できればよいと思うが、それは今後の課題として検討していきたい。

基本目標全体を網羅するような成果指標を設定するのが困難なのであれば、個々の事業ごとにしっかり進行管理をし、評価していく必要があると思う。子ども・子育て会議において評価していくことについては計画に記載されているが、市議会においても評価されるようにしないと予算の観点から改善していけない部分もあるので、その旨記載してはどうか。

次に、幼児教育・保育の無償化に伴い変更された「実費徴収に係る補足給付事業」の事業概要について、市民目線だとわかりにくい表現になっていると思うので、工夫されたい。

次に、「保育所の新設による受入の拡大」についてだが、保育業界は認定こども園に移行していくのが主流なので、そういった一体的な考え方で表現した方がよいと思う。

まず、保育所の新設については、それだけに頼って待機児童対策を進めるのは難しいものと認識しているので、表現については再度検討したい。

「実費徴収に係る補足給付事業」の事業概要については、市民にもわかりやすい表現に改めるよう検討したい。

市議会での評価については、まず議会の仕組みとして、本会議において予算や決算について議論され、福祉分野を担当する民生委員会において、市の子ども施策の詳細について議論や意見交換をし、改善につなげている。例えば昨今では児童虐待が社会的な問題となっており、国においても施策を打ち出し、市としても様々な対策を講じているところだが、こうした内容についても市議会において取り上げられているところである。

進行管理については、この子ども・子育て会議において実施することが示されているので、この会議としてはそれをしっかり受け止めて実施していきたいと思う。一方で、なかなか改善していかない部分もあると感じているので、今後この

会議による評価が有効なものになるよう工夫してほしいと思う。

本計画を策定することについては市議会へ報告したいと考えており、また計画の内容についても中間年に見直しを実施することとされているため、市議会や子ども・子育て会議での議論を踏まえ、臨機応変に対応し推進していきたいと考えている。

本計画は、現行計画の後期計画のような位置付けとして基本的な考え方は継承しているが、児童虐待や子どもの貧困対策等については拡充されており、そのあたりが今回策定する計画のポイントということになるのか。

児童虐待等については全国的な社会問題となっており、市議会においても議論されているところである。そういった社会の変化を捉えて必要な拡充をしたものについては策定のポイントとなる。

保育専門相談事業の確保提供量については、配置箇所数で計画しているが、現行計画から次期計画まで変わらず区ごとに1か所となっているので、例えば相談件数など変化が見える形にしてはどうか。

確保提供量としては区ごとに1か所ずつという状況であり、増加させることができれば好ましいとは思いますが、様々な事情から難しい状況である。配置箇所数以外の推計可能な確保提供量については検討したい。

すくすく保育アテンダントの在り方についてはこれまでも議論しているところであるが、他市においては、保育に関する相談だけではなく幅広く子育てに関する相談を受ける相談員を配置しているところもある。本市においては保育に関する相談に特化させているが、今後もその方向で進めるのか。

すくすく保育アテンダントを配置している子育て支援センターには様々な職種の職員が配置されているため、すくすく保育アテンダントのみで負担すること無く、組織として子育てに関する幅広いニーズに応えられるようにしていきたいと考えている。

すくすく保育アテンダントを増員して、保育以外の情報も収集できるような余裕が生まれれば、アテンダントとしての質が向上し、幅広いニーズに対応できるようになると思う。

SDGsに関する部分については具体的にどのように掲載しようと考えているのか。

SDGsについては最近になって全庁的な取扱いとして、本計画のような部門別計画にもそれぞれ位置付けることとされたため、掲載方法等は今後調整していくこととなるが、現段階では、総論において配布した資料のようなSDGsに関する説明を掲載し、各論においては基本目標ごとに関連するSDGsのアイコンを表示したいと考えている。

SDGsについては全世界共通の目標となっているので、国や地域に合わせた捉え方が必要である。例えば貧困に関しては、1日1.25ドル未満で暮らす人がいなくなるよう目指しているが、日本においてはこのような状態の人はほとんどいないと考えられる。しかし相対的に見れば日本にも貧困状態にある子どもはいるので、そういった共通する考え方を持つSDGsのアイコンを、関連の深い基本目標に配置したいと考えている。

SDGsについては、まだ一般に広く知られていないと思うので、市民の理解を深めていく必要があると思う。

よりよい子育て環境を目指し、次の世代に引き継いでいくという観点で、市民は子どもたちのために何をしていけばいいのか、また子どもたち自身は何をしていけばいいのか、その方向性を示してほしいと思う。

ご意見を踏まえ、子ども目線も意識した表現に改めたいと思う。

まずは市民に見慣れてもらうために、アイコンを表示することについてはよいと思う。さらに今後、本市なりにSDGsを捉えた上で各施策を推進してしていくことができれば、SDGs先進都市になっていくことができると思う。

SDGsの達成度で言えば、日本は世界的にみてかなりレベルが高い方と考えるので、自治体としてはシティーセールスに活用してよいのではないかなと思う。

成果指標における基準値・目標値や一部の表現については他計画との調整も必要とのことだが、どの段階で固まるのか。

他計画も概ね同様のスケジュールで進んでいるが、それぞれ進捗状況が異なるので、随時考え方の統一は図っていきたいと思うが、最終的には表現の差異が生じる可能性はある。

- 計画とは直接関係ないが、最近起きている殺人事件等の加害者について、幼少期の育ち方が関係しているのではないかと考えている。推察だが、彼らは子どもの頃から困難を抱えており、地域や関わる人たちがそのことを理解できていなかったのではないかなと思う。障害等の有無を問わず、地域における関わりは大切だと思う。
- 学校教育においては公立と私立はそれぞれの考え方で運営しているイメージだが、児童クラブにおいては公立と民間事業者が共存しつつ、質の向上を図っていくべきと考えているので、連携していければよいと思う。
- ジェンダー教育については、日本ではあまり浸透していない印象がある。これについては、命の教育や性教育などを継続的に積み重ねていく必要があるので、着実に推進されたいと思う。

また、貧困については日本と世界とでは状況が異なるが、本市の子どもたちには世界の状況についても知ってもらいたいと思う。また、自分たちの環境については自分たちで変えていけるよう、力をつけてほしいと思う。

事務局においては、本日出された様々な意見を踏まえ、次期計画や個別の施策に反映させていくよう検討を進めていただきたい。

3 閉 会

相模原市子ども・子育て会議

子ども・子育て支援事業計画策定部会委員名簿

(五十音順)

	氏名	所属等	出席
1	片山知子	元和泉短期大学児童福祉学科教授	出席
2	川上孝生	相模原市小中学校長会	欠席
3	笹野和子	公募市民	出席
4	中島清美	公募市民	出席
5	中台厚	相模原市私立保育園・認定こども園園長会	出席
6	永保貴章	一般社団法人 相模原市幼稚園・認定こども協会	出席
7	西谷八千代	みらい子育てネットさがみはら連絡協議会	出席
8	藤井春美	相模原市学童保育連絡協議会	出席
9	松原充子	特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会	出席
10	村瀬麻衣子	一般社団法人 相模原市ひとり親家庭福祉協議会	出席
11	山崎和正	相模原商工会議所	欠席

部会長